



2025年3月期第3四半期決算説明資料

株式会社QDレーザ
2025年2月

第3四半期決算説明に際して

株式会社QDレーザの2025年3月期第3四半期（2024年10月～12月）決算説明資料をお届けします。

第3四半期までの累計実績は、レーザデバイス事業の堅調に支えられて売上高925百万円、営業利益△333百万円となり、期初計画を上回って前年同期比増収増益（損失縮小）となりました。第2四半期までの前期比減収減益の流れを脱し、昨年11月に発表しました中期経営計画の達成に向けてまずまずの滑り出しと受け止めています。しかし損失は継続している状況にあり、これを確実に解消すべく尽力を継続してまいります。

また、通期見通しを売上高1,271百万円、営業利益△547百万円へ上方修正いたしました。VID事業でNRE（開発受託）を行わない基本方針を採っていますが、スマートグラス関連で例外的にNRE案件を受注したことを主因とするものです。

中期経営計画では2027年3月期の黒字化と成長可能性の両立を目論んでいます。特に後者の実現に必要な「攻め」を具体化していくため、執行役員COO（最高執行責任者）として、2025年1月、大久保潔氏が就任しました。大久保COOは、QDレーザ設立時から約4年間にわたって取締役副社長を務めた当社の産みの親の一人です。昨年末までシリコンバレーに駐在して最先端のテクノロジーと産業変革の躍動に接していた知見・経験を活かし、当社事業を一段高いレベルに押し上げてくれるものと期待しています。

中期経営計画で概括的な方向性をお示した個々の取組については、公表可能な段階まで固まり次第おしらせして参ります。スピード感が大切であることは重々承知している積りですが、早計もまた避けるべきものと考えております。どうぞご理解を賜り、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

株式会社QDレーザ代表取締役社長
長尾 収

Mission

半導体レーザーの力で、 人類の「できる」を拡張する。

Contents

- 01 2025年3月期第3四半期業績ハイライト
- 02 事業の説明
- 03 ESGの取組
- 04 用語集

当社は、かつて実現は不可能と言われた、
光通信用量子ドットレーザー (=Quantum Dot LASER)
の量産化に世界で初めて成功しました。

できないことをできるようにするのはもちろん、
今はまだない新たな「できる」をも創出していく。

レーザー技術を用いて、情報処理能力の飛躍的向上を実現し、
ロービジョン支援、眼の健康チェック、視覚拡張など、
人類の可能性を拡張する挑戦を続けます。

会社概要

富士通研究所からのスピンオフベンチャー

2021年2月東証マザーズ市場（現グロース市場）に上場（証券コード: 6613）

会社名 株式会社QDレーザ

設立 2006年4月24日

決算期 3月

代表者 代表取締役社長 長尾 収

従業員数 47名*1（2024年12月末時点）

所在地 本社：神奈川県川崎市川崎区南渡田町1-1

事業内容 **レーザデバイス事業**

- ・通信・加工・センサ用の最先端半導体レーザの開発・販売

視覚情報デバイス事業

- ・世界初のレーザ網膜投影技術を活用した「RETISSA」シリーズを製品化
- ・当社の技術・ノウハウを活用した顧客の新製品の試作品の受託・共同開発

業許可等

- ・第二種医療機器製造販売業
- ・医療機器製造業
- ・ISO 9001
- ・EN ISO 13485



代表取締役社長 長尾 収

製品拡大の道のり

レーザーデバイス

量子ドットレーザー (1300nm等)

世界初の光通信用
量子ドットレーザー商品化

光配線用量子ドット
レーザー量産開始

DFBレーザー (1064nm等)

精密加工・センサ用
DFBレーザー製品化

高出力レーザー (660nm等)

水準器・センサ用
高出力レーザー製品化

小型可視レーザー (532nm等)

バイオ検査等用途の
小型可視レーザー製品化

ドライバ内蔵ユニット
「Lantana」販売開始

富士通研究所スピンオフ
ベンチャーとして設立

東京証券取引所
マザーズ市場に上場

2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024

視覚情報デバイス

ロービジョン・エイド

民生用レーザー網膜投影機器
“RETISSA® DISPLAY”出荷開始 “Neoviewer” 出荷開始

ビジョン・ヘルスケア

Meocheckによる眼の健康
チェックサービス開始

スマートグラス

レーザー網膜走査型スマートグラス
共同研究開始

01

2025年3月期
第3四半期業績ハイライト

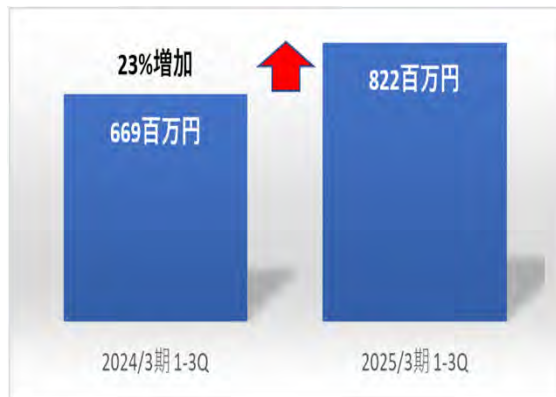
業績ハイライト

- 01 第3四半期累計でのレーザーデバイス(LD)事業売上高は前年同期比**23%増**の**822百万円**、視覚情報デバイス(VID)事業売上高は前年同期比**56%減**の**102百万円**、**全社売上高は前年同期比2%増**の**925百万円**

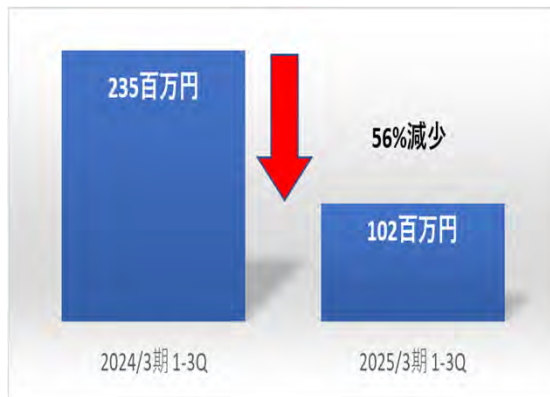
LD事業はDFBレーザと小型可視レーザが増加した一方、高出力レーザと量子ドットレーザが減少したことにより23%の増加。

VID事業は開発受託が増加した一方、前年同期のRETISSA NEOVIEWER米国販売及びMEOCHECK販売がなくなったことにより機器販売が減少して56%の減少。

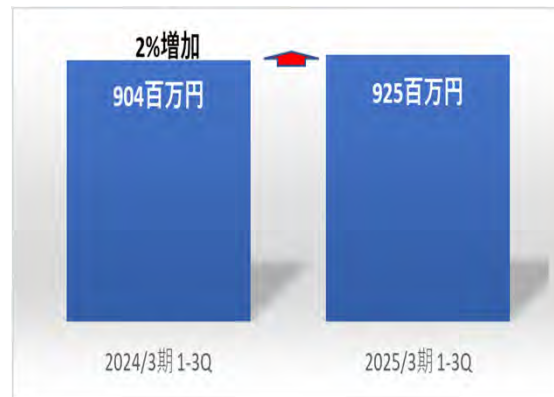
LD売上高



VID売上高



全社売上高



業績ハイライト

02 全社営業損失は前年同期比**42百万円(11%)改善**（LD事業営業利益は前年同期比**178%増の143百万円**）

LD事業では増員による人件費及び採用手数料、新拠点移転に向けた仲介手数料、開発進捗に伴う開発費など販管費が増加したものの、売上高増加に伴う売上総利益増加で販管費増加を吸収し、営業利益は前年同期比178%増加となる143百万円となった。

VID事業では販管費が減少した一方、売上高減少と前四半期の棚卸評価減による売上総利益減少が大きく、営業損失は前年同期比51百万円悪化の268百万円となった。これらの結果、全社では営業損失が前年同期から42百万円改善となる333百万円となった。



03 経常損失は前年同期比**39百万円(11%)改善**、四半期純損失は前年同期比**41百万円(11%)改善**

経常損失は前年同期に発生した助成金等収入がなかったため、営業利益の改善幅より小さく、前年同期比39百万円の改善となる326百万円となった。

四半期純損失は前年同期比41百万円の改善となる328百万円となった。



業績ハイライト

前年同期比で売上高増加、損失改善

売上高はLD事業で前年同期比23%の増加、VID事業で前年同期比56%の減少となり、全社では前年同期比2%増加となった。営業利益はLD事業では前年同期比178%増加の143百万円、VID事業では前年同期比51百万円の悪化となり、全社営業損失は前年同期比42百万円(11%)の改善となった。

全社業績サマリー

(単位：百万円)	2025/3 第3四半期累計	2024/3 第3四半期累計	前年同期比
売上高	925	904	+2% (+20)
(内、LD)	822	669	+23%
(内、VID)	102	235	△56%
営業利益 又は損失(△)	△333	△375	+42
(内、LD)	143	51	+91
(内、VID)	△268	△217	△51
経常損失(△)	△326	△366	+39
四半期純損失(△)	△328	△369	+41



主要製品群別売上サマリー

(単位：百万円)	2025/3 第3四半期累計	2024/3 第3四半期累計	前年同期比
DFBレーザ	381	279	+37%
小型可視レーザ	220	135	+63%
高出力レーザ	167	170	△2%
量子ドットレーザ	53	84	△36%
LD事業計	822	669	+23%
製品	27	160	△83%
開発受託	72	61	+18%
健康チェックサービス	2	12	△78%
VID事業計	102	235	△56%
合計	925	904	+2%

貸借対照表

資産合計は、現金及び預金の減少等により533百万円の減少、負債合計は買掛金、未払金の減少等により201百万円の減少、自己資本比率は95.1%（前期末は92.1%^{*1}）となった。

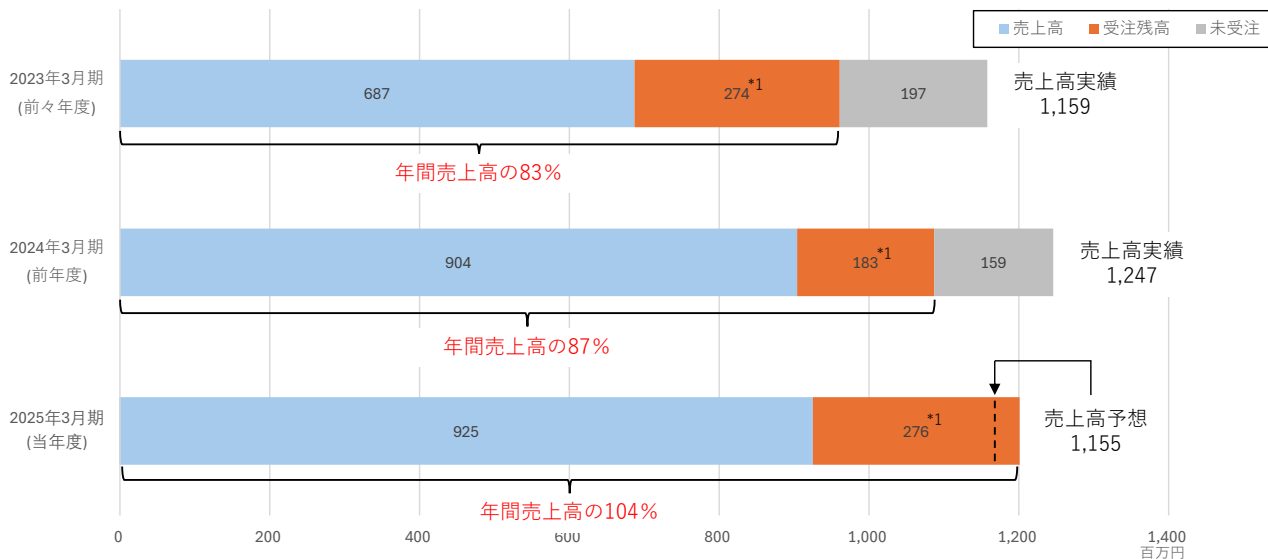
貸借対照表

(百万円)	2024/12月末	2024/3月期末	前期末比
流動資産	4,885	5,762	△876
固定資産	727	384	+ 343
資産合計	5,612	6,146	△533
流動負債	246	444	△198
固定負債	30	34	△3
負債合計	276	478	△201
純資産合計	5,335	5,667	△332
負債純資産合計	5,612	6,146	△533

受注状況

第3四半期末時点で売上高 + 受注残高 (年度内売上予定分) が1,201百万円となり、予想売上高^{*2}を4%超過。

第3四半期末時点での年間売上高に対する売上高 + 当年度売上予定受注残高

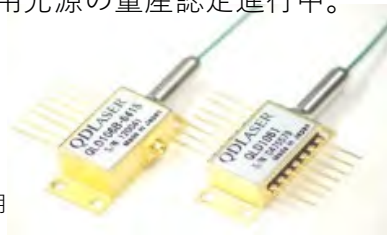


DFBレーザ^{*1}：売上高

2025/3期第3四半期累計売上高は前年同期比37%増加となる381百万円となった。

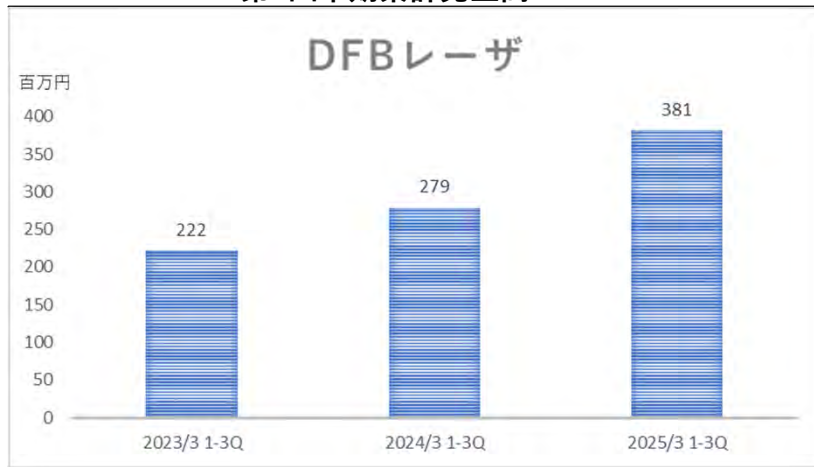
主力の精密加工用および計測（センサ）用光源の受注好調

- **精密加工**：178百万円（47%^{*2}）
- 北米の新規および中国の既存加工装置向けレーザ等の受注好調により、前年同期比104%の売上増加
- **計測（センサーシステム）**：114百万円（30%^{*2}）
- 欧州のLiDAR用光源の受注好調や中国および米国のセンサ用光源の受注により前年同期比82%の売上増加
- **医療**：51百万円（14%^{*2}）
- 前年同期比13%の売上減少。増加基調の欧州医療機器用光源は堅調。
- **計測（半導体ウエハ検査）**：32百万円（8%^{*2}）
- 好調であった前年同期比54%の売上減少。他方、日本の半導体ウエハプロセス関連の検査装置用光源の量産認定進行中。



DFBレーザ
左：15ピコ秒パルス用
右：50ピコ秒／ナノ秒パルス、CW用

2023/3期、2024/3期、2025/3期
第3四半期累計売上高

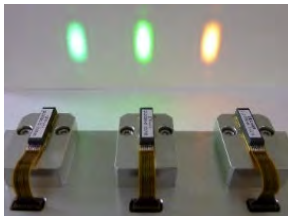


小型可視レーザー：売上高

2025/3期第3四半期累計売上高は前年同期比63%増加となる220百万円となった。

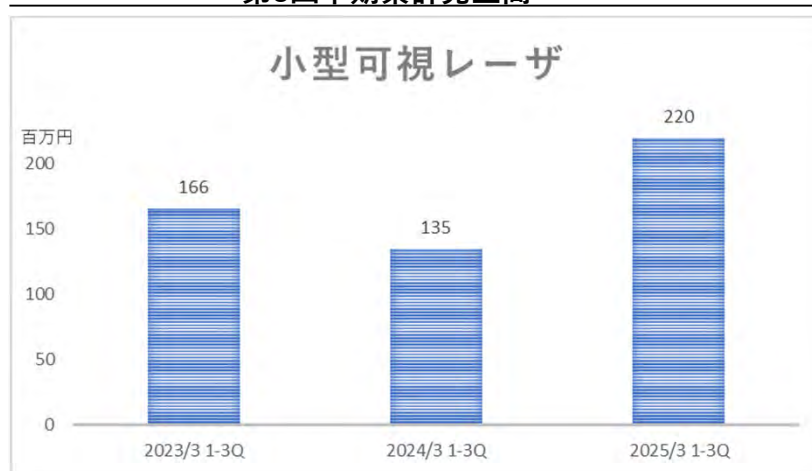
昨年度受注が低迷した最大顧客による発注が戻り、フォーキャスト通り順調に受注が積み上がった。

- **血液・細胞分析（フローサイトメータ、セルソータ^{*1}）**： 165百万円（75%^{*2}）
- 前年同期比150%の売上増加となった。中国（本社米国）顧客のバイオ検査装置用光源に係る在庫調整が終わり、同社のみで前年同期比売上が1億円超増加。
- **顕微鏡**：51百万円（23%^{*2}）
- 前年同期比23%の売上減少。欧州バイオメディカル用STED顕微鏡^{*3}メーカーからの受注低調（前年同期比売上10百万円減）等が響いた。他方、新規に日本のバイオメディカル装置用光源の認定用受注として12.9百万円売上実績。
- **Lantana**：
- 2025年2月に製品貸出開始し、フィードバックを得て改良品の6月リリースを計画。



小型可視レーザー
左：緑色、中央：黄緑、右：オレンジ色

2023/3期、2024/3期、2025/3期
第3四半期累計売上高



高出力レーザ：売上高

2025/3期第3四半期累計売上高は前年同期比2%減少となる167百万円となった。

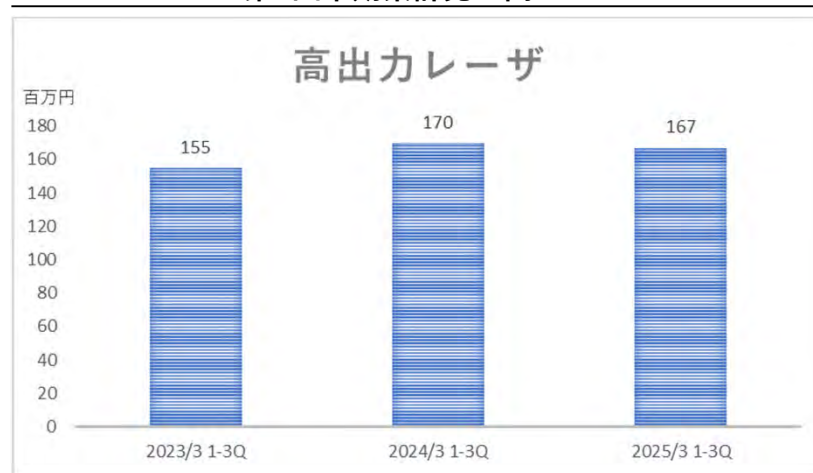
昨年度受注の多かったセンサ・レベラー用光源やウエハ搬送機用センサ光源の受注が低調

- 建設・DIY用水準器、センサ：82百万円（49%^{*1}）
- 前年同期比3%の売上増加。本分類の25%を占める中国センサ・レベラー用光源がユーザーの使用波長変更により受注低調となり前年同期比5%減となったが、欧州センサ用光源等、他の顧客向け売上が増加した。
- 半導体工場用センサ：45百万円（27%^{*1}）
- 前年同期比5%の売上増加。本分類売上の過半を占める日本のウエハ搬送機用センサ光源2社の受注低調（併せて前年同期比20%売上減少）を、パーティクルカウンタ用光源等の受注好調で補った。
- マシンビジョン・工場内データ通信：34百万円（21%^{*1}）
- 前年同期比22%の売上減少。本分類で最大口の北米マシンビジョン用光源は前年同期比80%売上増と好調であったが、他の顧客からの受注が低調に推移。



高出力レーザ
TOパッケージ

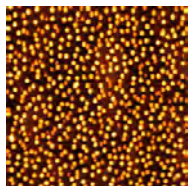
2023/3期、2024/3期、2025/3期
第3四半期累計売上高



量子ドットレーザ^{*1}：売上高

2025/3期第3四半期累計売上高は前年同期比36%減少となる53百万円となった。

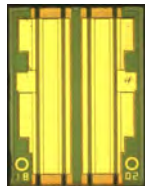
- 量子ドットレーザを組み込んだ最終製品については、当社顧客において量産化を目指した研究開発がさまざまに進捗。
- 日米欧計9社とシリコンフォトニクス用光源の共同開発を推進中（光コネクタ・チップ間通信、LiDAR等）。
- 当社顧客における研究開発・試作用途の量子ドットレーザ需要は、上下変動はありつつも、概ねこれまでの趨勢通り推移する見込み。
- 日米欧亜の8大学・研究機関から研究用途の量子ドットウェハの問合せがあり、第3四半期までに5件受注・出荷済、第4四半期4件受注済・出荷予定。
- 光コネクタ・チップ間通信向けウェハ等の受注・出荷継続
- 当社における量産案件として受注した2023-2024年度出荷6万個については、2024年度中に残1.8万個を出荷予定。
- 2025年度以降のフォーキャストにつき確認協議中。



量子ドット

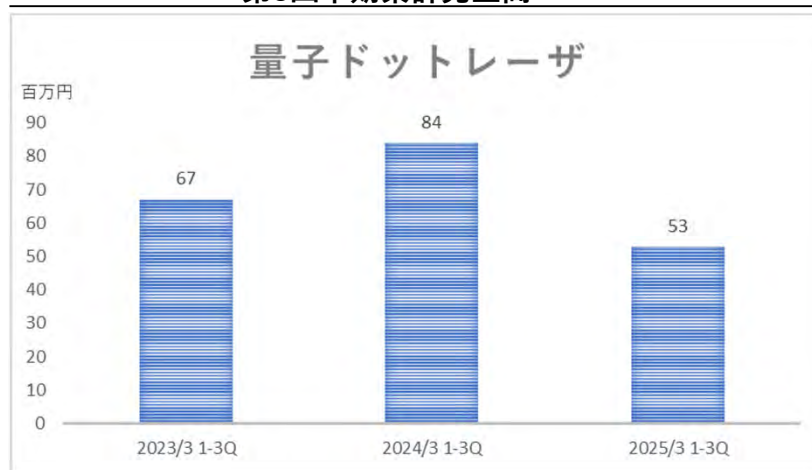


量子ドットウェハ



量子ドットレーザチップ

2023/3期、2024/3期、2025/3期
第3四半期累計売上高



視覚情報デバイス(VID)：売上高その他中期経営計画進捗

2025/3期第3四半期累計売上高は前年同期比56%減少となる102百万円となった。

- **製品・サービス販売**（第3四半期累計売上高29百万円）

中期経営計画方針に基づき、① RETISSA MEOCHECKによる「眼の健康チェックサービス」及び② 手持ち型視覚支援デバイス RETISSA ONHANDの拡販並びに新規に他社開発視覚支援製品の③開発・生産・販売支援及び④コア部品・テクノロジー提供に集約

- ヘッドマウントディスプレイ RETISSA Display IIは生産終了済、ソニーとの提携販売製品RETISSA NEOVIEWERは今期売上予算21百万円を達成済で追加生産見合わせ中)

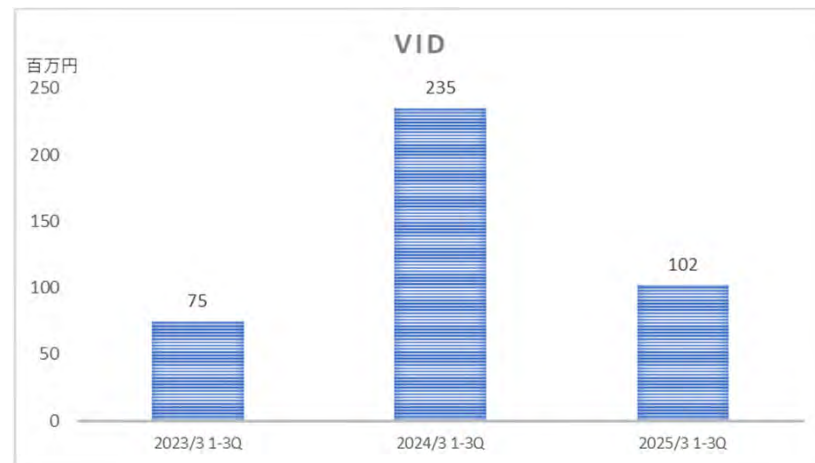
- ① RETISSA MEOCHECK - 「眼の健康チェックサービス」を、運輸、物流業界向け導入促進活動中。
- ② RETISSA ONHAND - 博物館、スポーツ観戦等公共施設に向けた普及活動を推進中。
- ③④ 他社開発視覚支援製品 - テクノロジーライセンスの協議進展。

- **開発受託 (NRE)**（第3四半期累計売上高72百万円）

次世代レーザ網膜投影型アイウェア（スマートグラス）に関する開発を中心に第3四半期62百万円を受注。

- 中期経営計画では、NRE案件受注は行わない基本方針なるも、例外的に第4四半期70百万円超の案件受注。
- **スマートグラス及ビジョンヘルス医療応用分野の共同事業化**
- 複数候補と協議推進中。

2023/3期、2024/3期、2025/3期
第3四半期累計売上高



業績予想修正

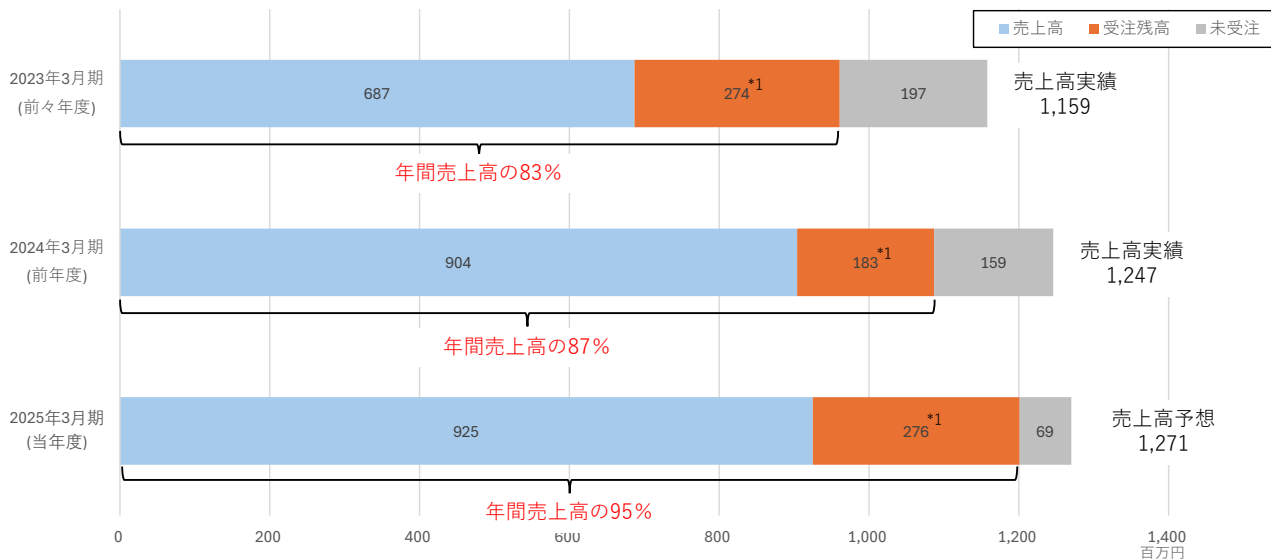
(単位：百万円)	2025/3 通期予想	2025/3 前回予想 ^{*1}	前回予想比	2024/3 通期実績	前年度比
売上高	1,271	1,155	+10% (+116)	1,247	+2% (+23)
(内、LD)	1,102	1,054	+4%	934	+18%
(内、VID)	169	100	+69%	312	△46%
営業利益 又は損失(△)	△547	△605	+58	△604	+56
(内、LD)	107	83	+24	41	+65
(内、VID)	△371	△405	+34	△375	+3
経常損失(△)	△534	△592	+58	△600	+65
当期純損失(△)	△538	△596	+58	△642	+103

2024年11月14日公表の中期経営計画において、視覚情報デバイス事業における開発受託は基本的に行わない方針を示しておりましたが、スマートグラス関連の案件を例外的に受注いたしました。また、レーザデバイス事業におきましては全製品において前回予想を上回る受注があります。これらを主な理由として、業績予想を修正いたします。

受注状況(売上高予想上方修正後)

第3四半期末時点で売上高 + 受注残高 (年度内売上予定分)が1,201百万円となり、修正予想売上高^{*2}の95%。

第3四半期末時点での年間売上高に対する売上高 + 当年度売上予定受注残高



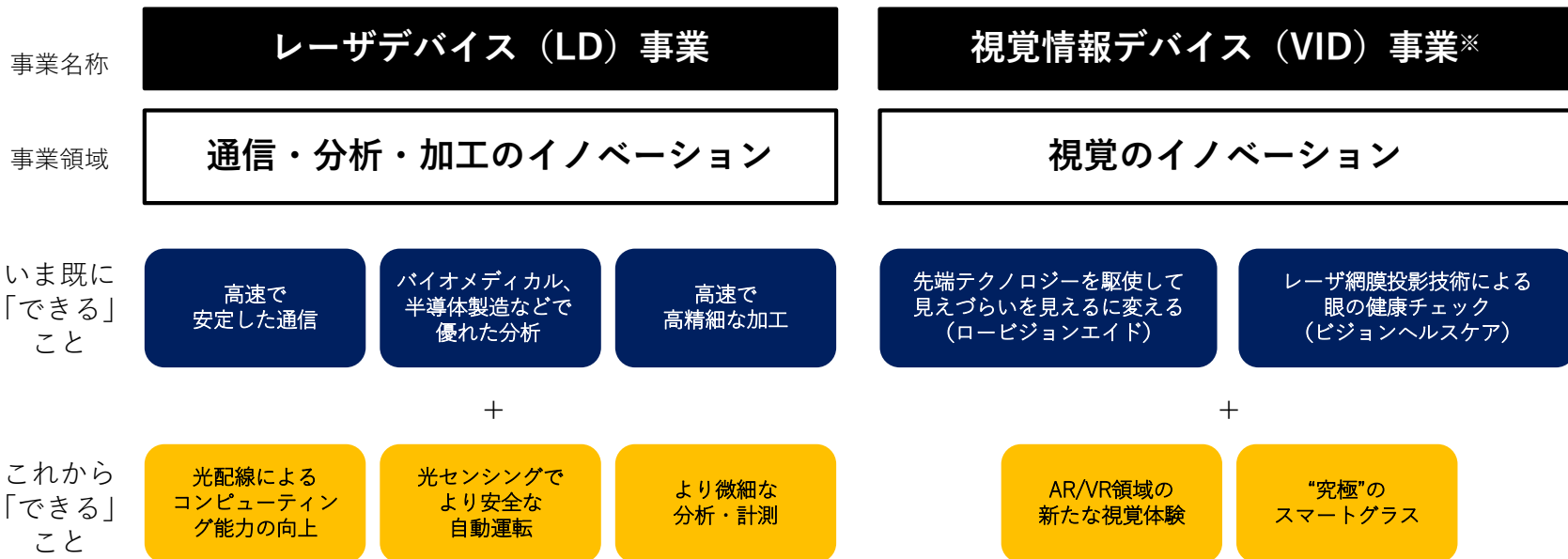
02

QDレーザの事業

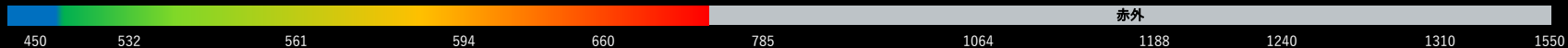
人類の「できる」を拡張する2つの事業

半導体レーザーの力で「できる」を増やし、人類全体の幸福度向上に貢献する。

※事業領域の拡大に伴いレーザーアイウェア（LEW）事業から名称変更



レーザデバイス (LD) 事業部：主要レーザデバイス製品 一覧



小型可視レーザ



高出力FPレーザ



DFBレーザ



量子ドットレーザ

波長 532, 561, 594 nm

640-970nm

1030, 1053, 1064, 1080, 1120, 1180nm
1020-1120nmは1nmステップでラインナップ

1,200-1330nm

特長

- 超小型・低消費電力・安定性・短パルス発生・高速変調・単色性等
- 世界初の電流注入型緑・黄緑・橙半導体レーザ

- 高出力ファブリペローレーザ
- アプリケーションに応じた製品・ソリューションを提供
- 各種波長への対応。少量・カスタム生産へ対応

- 波長の緻密な制御、連続動作・ナノ秒・ピコ秒の安定動作
- 既存の固体レーザと比べて、ビーム品質の高さ・小型軽量・電気-光変換効率の高さ・長寿命等の特性
- 顧客の様々な要望に対応する豊富な製品ラインナップ

- 半導体レーザの活性層（発光部）に量子ドット構造を採用
- 既存の半導体レーザ対比、温度安定性、高温耐性、低雑音性に優れる

使途

- 計測
- 医療
- 加工
- 通信
- Si
- フォトリソ

- バイオセンサー、蛍光顕微鏡など
- 特にフローサイトメーター用

- マシンビジョン、センサ、水準器、短距離LiDAR、3D計測、パーティカルカウンタ

- 精密加工用ファイバレーザの種光
- 半導体検査装置用
- 航空LiDAR等、ガスセンシング等の計測用光源用

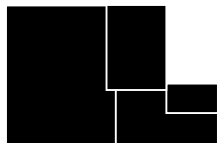
- シリコンフォトリソ用途
- 光コネクタ・チップ間通信
- セキュリティカメラ、産業用ドローン、自動運転用LiDAR

レーザーデバイス（LD）事業部：QDレーザー製品の採用事例

QDレーザーの製品は様々な産業を支える装置に組み込まれ、経済活動に寄与。
社会が注目する各種製造業・事業の発展に寄与。

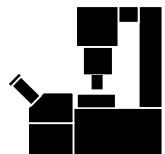
バイオメディカル

検査・分析装置の光源として
創薬など医学研究に貢献



フローサイトメータ
細胞を数える分析装置
その光源に採用

光源サイズ
 $\frac{1}{3}$



STED顕微鏡

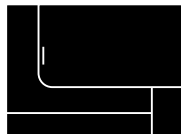
従来の顕微鏡よりもはるかに
小さなものを観察できる顕微鏡
その光源に採用

空間分解能
50nm

光源サイズ
 $\frac{1}{3}$

精密加工

精密電子機器などの筐体や基板の
加工に用いられ小型・高機能化に貢献



超短パルスレーザー加工機

熱の影響を抑えて微細な加工が可能
その光源に採用

メンテナンス頻度
 $\frac{1}{3}$

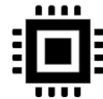
表面粗さ
 $\frac{1}{4}$

スループット
2倍^{*1}

QDレーザーの製品を採用したことで
小型な装置
高精度な装置
高性能な装置
が「できる」ように

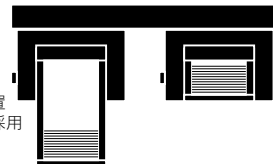
半導体製造

製造プロセスの各種装置に
組み込まれ半導体産業全体に貢献



半導体ウェハ搬送機

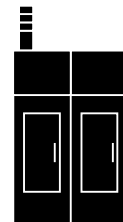
板状の半導体を運ぶ装置
衝突防止のセンサーに採用



半導体検査装置

半導体の品質を確保する検査装置
異常を検出するセンサーに採用

パルス幅
(分解能)
15ps



半導体レーザーの歴史と、第3期の到来を見据えて先行投資を進めたQDレーザー

第1期：原理提唱と レーザーの発明(~1960)

レーザー：

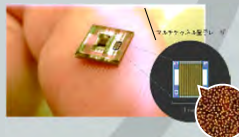
記録や通信、更には加工、センシングなどに利用されている技術
医療、家電、自動車、製造、エンタメなど様々な業界において導入されている

第2期：半導体レーザーの発明と光通信、 インターネットの構築 (1995~)

2006年の創業以来、
第3期の到来を見据えた先行投資を実施。
多様なアプリケーションに
対応できる礎を築く。

QDレーザーのレーザー光を生み出し、 制御するナノテクノロジー

量子ドットの原子間力顕微鏡写真と、
指先サイズの100Gbps光トランシーバ
シリコンチップに搭載された量子ドットレーザー^{*1}

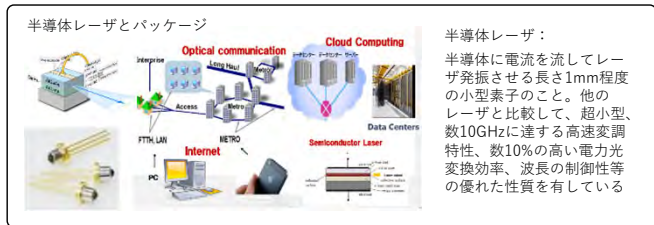


量子ドットレーザー

第3期：人間と情報世界の融合を加速 (2020年台~)

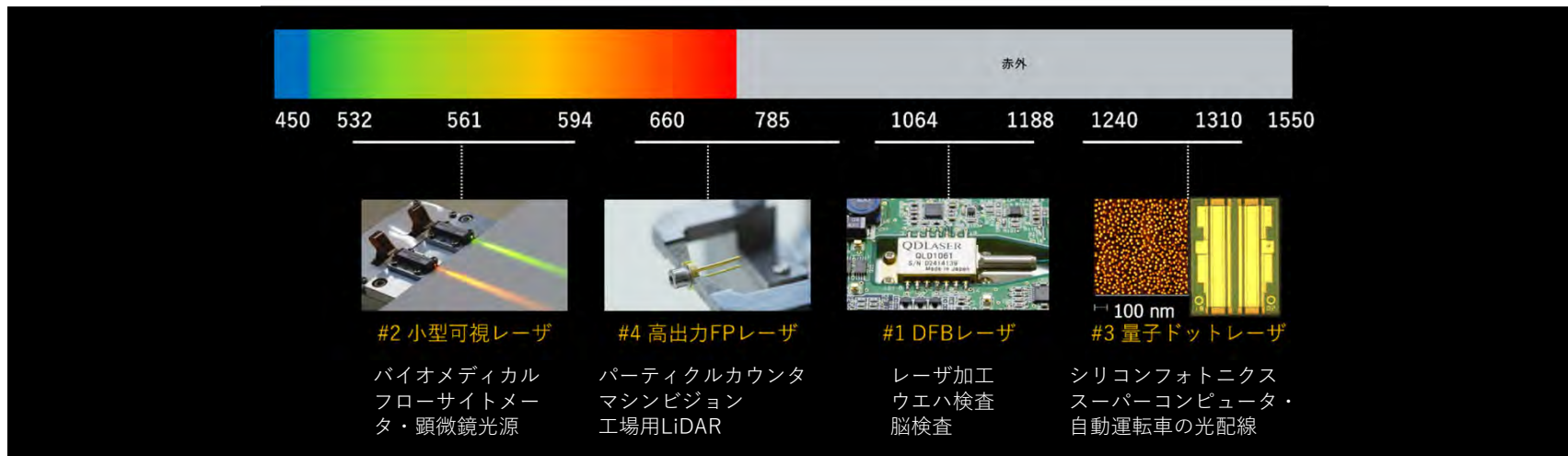
当社レーザーが適用可能な分野 (すべて開発中あるいは製品化済)

- 5G基地局
- スーパーコンピュータ
- 視覚支援
- スマートグラス
- データセンタ光化
- 顔認証
- 眼底撮影
- 車載通信
- 自動運転用LiDAR
- バイオ検査
- レーザ加工
- 視野検査



QDレーザーの強み：競合優位性

あらゆる「色」の半導体レーザーの開発から量産までをセミファブレス^{*1}で実現。



様々な領域のイノベーションに、半導体レーザーは必須。しかし、用途ごとに対応するレーザーの波長＝色は異なる。QDレーザーは、コアテクノロジーをベースに、あらゆる色のレーザーを開発から量産まで実現する仕組みを構築。加工、計測、バイオメディカル、通信など、幅広い分野に対応するユニークなセミファブレス半導体レーザーメーカー。

QDレーザの強み：コアテクノロジー

材料、設計、制御に渡って

唯一領域を多数保有する最先端の半導体レーザ技術



*1 : "Extremely high temperature (220° C) continuous-wave operation of 1300-nm-range quantum-dot lasers",
Published in 2011 Conference on Lasers and Electro-Optics Europe and 12th European

*2 : 世界最小5mm角の超高速・低消費電力光トランシーバを開発—100 Gbps/chの伝送速度を実現—

*3 : 2017 PRISM Award in Industrial Lasers - QD Laser (2017年2月2日)

*4 : 2019 Prism Awards in Vision Technology - QD Laser (2019年2月8日)

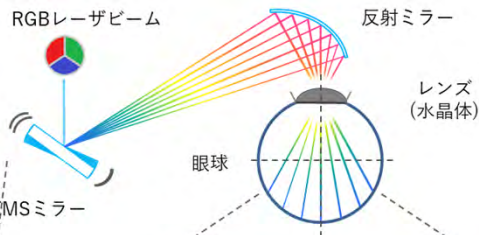
*5 : 日米PATENT 特許第5362301号/US8896911

視覚情報デバイス（VID）事業部：事業概要

レーザーで網膜に直接映像を投影する技術・製品によって、人類の視覚にイノベーションを起こす。

世界で先行するレーザー網膜投影技術

VISIRIUM TECHNOLOGY®



できるを拡張する3つの事業領域

③見えるの世界を拡張する
Augmented Vision

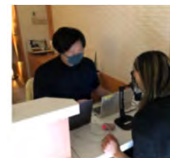
なくてはならない“究極の”スマートグラスができる”

②見えるの健康寿命を延ばす
Vision Health Care

眼の健康チェックサービスで眼疾患の気づきを与えることが”できる”

①見えづらいを見るに変える
Low Vision Aid

見えづらさがあっても
やりたいことが”できる”



03

ESGの取組

サステナビリティに直結する事業展開

半導体レーザーの力で「できる」を増やし、人類全体の幸福度向上に貢献する。

【レーザーデバイス (LD) 事業】

レーザー光源による高度なセンシング

レーザー光源による
新しい検査方法

データ活用による
創薬などへの貢献

高度な自動運転
での事故撲滅



2024 ————— to —————> 2030

【視覚情報デバイス (VID) 事業】

レーザー網膜投影技術

眼疾患の気づきを
与える自分で測れる
簡易チェッカー

ロービジョンエイド
の社会実装拡大

視覚に関わる
あらゆる不便の解消



2024 ————— to —————> 2030

医療検査・医学研究への貢献。予防医療の発展による健康寿命の延伸。そしてインクルーシブ社会の実現。

QDレーザーが有する技術と事業の拡大が、より幸福な社会の実現に直結する。

04

用語集

用語集

半導体レーザー	半導体に電流を流してレーザー発振させる長さ1mm程度の小型素子のこと。固体レーザー、ガスレーザーと比較して、超小型、数10GHzに達する高速変調特性、数10%の高い電力光変換効率、波長の制御性等の優れた性質を有している。1980年代に光通信、CD/DVDなどの光記録用の光源として普及した。
量子ドットレーザー	量子ドットレーザー(Quantum Dot Laser : QDL)は、活性層に半導体のナノサイズの微結晶である量子ドット構造を採用した半導体レーザーのこと。既存の半導体レーザーと比較して温度安定性、高温耐性、低雑音性に優れるという特徴がある。
DFBレーザー	分布帰還型 (Distributed Feedback : DFB) レーザのことで、半導体レーザー内部に回折格子を設けて単一波長でレーザー発振することを可能としたレーザー。ファイバレーザーの種光のように狭い波長域に光出力を集中させる必要がある用途に適する。
シリコンフォトリニクス	信号演算とメモリ機能を有するシリコン電子回路に光回路を混載する技術。電子回路システム処理能力の従来の限界を打破し (100倍の処理速度と低電力化を実現)、LSIチップ間の大容量伝送 (10Tb/s) を可能とする。
VISIRIUM テクノロジー	光の三原色である赤・緑・青のレーザーを使って自在に色を作り出し、精密な光学系によって網膜に直接画像を投影する技術。
回折格子	レーザー内部に周期的な凹凸を形成することで、半導体レーザーの波長を自由かつ精密に制御する技術。
超短パルス	1つのパルスの幅 (時間幅) が非常に短いレーザーのこと。熱影響による形状不整を防止することができ、微細加工等に用いられる。
小型可視レーザー	当社独自の半導体レーザーと波長変換素子を組合せて可視光 (緑・黄緑・橙色) を発生させる小型モジュール。
網膜投影	網膜上に映像を投影すること。
フローサイトメータ	細胞の分析装置のこと。細胞の浮遊液や懸濁液を細管に通してレーザー光を照射し、蛍光や散乱光の測定によって細胞数とサイズの計測を短時間で多量に行う。分子生物学、病理学、免疫学、植物生物学、海洋生物学など各種分野にて応用されている。
LiDAR	LiDAR (Light Detection and Ranging) は、対象物にレーザー光を照射し、その反射光を光センサでとらえて距離を測定する技術。今後、自動車の自動運転分野への活用が期待されている。

本資料の取扱いに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます
- これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません